

毎週日曜発行
2018 5/6

こども新聞 週刊かほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうの紙面

2 サイエンス

3 3分チャレンジ

4・5 いいね

小学校

6 英語

7

かほくワークシート

8

書ポコン①

続々 **お仕事**
の現場



5

フラワーショップ店長

半沢 朋子さん (46)

＝仙台市宮城野区＝



店には50種類ほどの花をそろえる。「ちゃんと世話をすれば、きれいに咲く。花は生きていますね」と半沢さん。

色とりどりの花があつて、いい匂いのする花屋さん。かほピョンは、毎日花に囲まれる仕事があつた。仙台区にある「フローリスト花巧房」の店長半沢朋子さん(46)を訪ねたよ。

幼いころは川の土手で花を摘んで遊び、小学校の卒業文集に「お花やさんになりたい」と書いた半沢さん。夢を温め続け、短大を卒業した20歳からフローリスト花巧房

「思い」が伝わる花束作り

で働き始めました。初めは分からないことばかり。重いおけを運んだり、冷たい水で手が荒れたり、大変なことも多かったそう。「でも、大好きな花に毎日触れることがうれしくて、辞めたいと思つたことは一度

もない」と振り返ります。「早く一人前になりたくて必死でした」



最初に覚えたのは、花

で贈るのかに合わせて、色や種類を選び、組み合わせを考えます。同じ花でも、作る人によって仕上がりは全然違つてきます。「イメージにぴつたり」と喜ばれると本当

今では店長を務め、市場での仕入れも任されています。プロとして腕の見せどころは、花束作り。誰から誰に、どんな思い



を店に出すまでの手入れです。水中で茎を切り、瞬時に水を吸わせる「水切り」、水や熱湯につけて隅々まで水分を行きわたらせる「水揚げ・湯揚げ」など。これらがきちんとできていると、花は生き生きと長持ちし、最後のつぼみまで咲くのだそうです。品種や花の状態、気温によって加減を変えるのが難しく、「失敗して腐らせたしまったことも」と打ち明けます。



愛用のはさみとナイフ。皮のケースに入れていつも腰に着けている

「花は奥が深い、まだまだ勉強したい」と話す半沢さん。かなえた夢の先に、新しい夢が広がっているようです。

◇ 花がきれいなのは、裏方さんの働きがあるからなんだね。かほピョンもきょうは部屋に花を飾ろうつと。

今週の注目ニュース

◇7日(月) 名古屋城の天守閣を木造で復元するために閉鎖(名古屋市)
天守閣は太平洋戦争で焼けた後、コンクリートで再建されたんだ。木造に建て替える工事は、2022年まで続く予定だよ。

◇8日(火) イタイイタイ病の公害病認定から50年(富山県)
1968年、国は鉱山から川に流れたカドミウムが原因で、住民が重い腎臓病や骨がもろくなる病気になったことを認めたよ。この歴史を風化させてはいけないね。